

高校生 ICT 2018 Conference

最終報告会

社会で活躍するための ICT 活用法 ～ 18 才成人化を控えて ～

開催報告書

2018 年 12 月 14 日(金)

【会場】文部科学省、内閣府、総務省（報告順）

主催

高校生 ICT カンファレンス実行委員会

（構成団体）

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2018

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2018 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2018 最終報告会 開催概要.....	6
4. 高校生 ICT Conference 2018 最終報告会 発表内容.....	7
5. 主担当.....	17

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2018</p> <p>テーマ：社会で活躍するためのICT活用法 ～ 18才成人化を控えて～</p>
主催：	<p>高校生ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 ● ※地域主催があれば追加
共催：	<p>内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、</p> <p>※地域共催があれば追加</p>
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校PTA連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、</p> <p>※地域後援があれば追加</p>
協賛：	<p>グーグル合同会社、株式会社ディー・エヌ・エー、一般社団法人情報教育研究所、株式会社ラック、グリー株式会社、株式会社サイバーエージェント、LINE株式会社、株式会社インテグラル、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研、アルプスシステムインテグレーション株式会社</p>
協力：	<p>株式会社内田洋行、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、</p> <p>※地域協力があれば追加</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012年度は、東京開催を加え計17校79人の高校生が参加し、2013年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて5拠点にて開催し、計51校267人の高校生が参加しました。2014度も同5拠点にて開催し、計44校221人の高校生が参加しました。</p> <p>2015年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた9拠点にて開催し、計78校310人の高校生が参加しました。2017年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた14拠点にて開催し、計107校476人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人に</p>

なる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。

【本年開催テーマのコンセプト】

2016年の参議院選挙から18才選挙権がスタートするとともに、成人年齢についても20才から18才への引き下げが暫時検討されてきました。2018年1月第196回国会で、成人年齢を18才とする民法改正案が提出され、これまで20才での成人という常識が、変わろうとしています。未成年者は親権者あるいは未成年後見人の親権に服することとなっており、成人になるということは、親権者の同意なく自身の判断で「契約」行為などを行うことができるようになります。

インターネットが私たちの生活に普及し、スマートフォンなど携帯型端末を持ち歩き、いつでもどこでもインターネットのサービスを利用できるようになりました。一方でクレジットカードやプリペイドカードの普及、仮想通貨の登場など、現金以外での取り引き方法がインターネット上では多く利用されるようになり、手元で簡単に契約行為を行うことが可能になりました。

18才成人化に伴い、いわゆる「大人」とみなされる年齢が引き下げされることに伴い、18才になれば大人としての権利を行使できるとともに、大人としての責任も生じることとなります。ビジネスの世界では、あらゆる産業でICTを活用し、業務の効率化や多様な事業を展開し始めています。今年度の「高校生 ICT Conference」では、インターネットのある環境で生まれた高校生が、こうした高度に IT 化された社会で活躍するために、どのようなことに注意を払い、どのような能力が必要で、どのようにそれらを身に付けていけばいいかを18才になる高校生のうちに考えておく機会を設けることを目的としました。

※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。

開催の概要：

【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。

- (1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表
- (6) 講評 (7) サミット参加者発表

【東京サミット】

- (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表

	(5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表 【最終報告会】 (1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換
各開催地 募集人員等：	募集参加生徒 30名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30名 (各開催地により変動あり)
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2018 実行委員会：	【委員長】 ・ 米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長) 【コアメンバー】 ・ 石田幸枝 (公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者 団体訴訟室長) ・ 猪股 富美子 (お茶の水女子大学 人間発達科学研究所) ・ 植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事) ・ 小城 英子 (聖心女子大学) ・ 他、関係者団体、事業者等 【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180

2. 高校生 ICT Conference 2018 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	2018年9月16日	札幌ユビキタス協創広場 U-cala(内田洋行)
帯広	2018年9月17日	とかちプラザ
宮城	2018年10月7日	東北工業大学一番町ロビー
山形	2018年9月29日	山形県庁
茨城	2018年8月22日	茨城県立青少年会館
神奈川	2018年10月6日	学校法人岩崎学園
新潟	2018年8月20日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
石川	2018年9月15日	金沢大学角間キャンパス
長野	2018年9月29日	安曇野市明科公民館
静岡	2018年9月24日	専門学校静岡電子情報カレッジ
愛知	2018年10月21日	名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)
大阪	2018年9月9日	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2018年10月7日	帝塚山大学奈良・東生駒キャンパスキャンパス
山口	2018年8月10日	サビエル高等学校

高知	2018年8月14日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	2018年9月23日	エルガーラホール
大分	2018年8月26日	九州電力株式会社大分支社 2階大ホール
鹿児島	2018年8月18日	鹿児島大学学習交流プラザ
サミット	2018年11月3日	東京ユキビタス協創広場 CANVAS(内田洋行)
最終報告会	2018年12月中旬	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。(サミット熟議のみ参加) ※2017年度実績：福井

3. 高校生 ICT Conference 2018 最終報告会 開催概要

日 時：	2018年12月14日（金）10:00-17:30
10:00-11:00	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換
15:30-16:30	内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換会
16:30-17:30	総務省にて高校生プレゼン、意見交換、政務官との意見交換
場 所：	〔文部科学省 生涯学習政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 〔内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100-8914 東京都千代田区霞が関 3-1-1 中央合同庁舎 4号館 〔総務省 総合通信基盤局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 第2号館
テーマ	社会で活躍するためのICT活用法 ～ 18才成人化を控えて ～
出席者：	〔最終報告者〕 2名 【長野県】長野県松本深志高等学校 2年 女子 【大分県】東九州龍谷高等学校 2年 男子 〔引率〕 2名 【長野県】長野県松本深志高等学校 【大分県】東九州龍谷高等学校 〔随行〕 7名 安心ネットづくり促進協議会 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 他、関係事業者・団体 【文部科学省】 生涯学習政策局 局長 社会教育振興総括官 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 計 10名 【内閣府】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 政府関係者 内閣官房、警察庁、総務省、法務省、文科省、経産省 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当） 政策統括官（共生社会政策担当） 審議官 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年環境整備担当） 計 25名

	<p>【総務省】</p> <p>政務官</p> <p>総合通信基盤局長</p> <p>同 電気通信事業部長</p> <p>同 電気通信事業部 消費者行政第一課</p> <p>情報通信国際戦略局 情報通信経済室</p> <p>同 国際協力課</p> <p>情報流通行政局 情報流通高度化推進室</p> <p>関東総合通信局 電気通信事業課</p> <p>計 14 名</p>
--	--

4. 高校生 ICT Conference 2018 最終報告会 発表内容

<p>概要</p>	<p>全国 18 所でワークショップ形式の議論を実施し、札幌、帯広、宮城、山形、茨城、神奈川、新潟、石川、長野、静岡、愛知、大阪、奈良、山口、高知、福岡、大分、鹿児島からそれぞれ代表者 1 名を選出。福井、沖縄からの招待参加を含め、合計 20 名による高校生 ICT Conference2018 サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 2 名が、文部科学省、内閣府（青少年インターネット環境の整備等に関する検討会）、総務省において、高校生 ICT Conference2018 で得られた成果を提言として発表しました。</p> <p>最終報告の内容は主に以下の通り。</p> <p>【高校生による提言】</p> <p>『社会で活躍するための ICT 活用法 ～18 歳成人化を控えて～』最終報告</p> <p>11 月 3 日に行われたサミットにおいて、参加した生徒は 3 つのグループに分かれ、民法改正による 2022 年からの成人年齢引き下げと、高度に IT 化された社会で活躍するためにはどのようなことに注意を払い、どういった能力を身に付けていく必要があるかについて話し合い、その結果を 12 月 14 日の最終報告会の提言として報告しました。</p> <p>(1) 高校生 ICT Conference 2018 サミットでの提言のまとめ</p> <p>●A、C グループ</p> <p>①共通理解：成年と未成年の違いとは何か？</p> <p>⇒経済的自立、自由に決められることが増える、社会的責任を果たす必要性</p> <p>②社会で活躍することとは？</p> <p>⇒自己完結せずに働くこと、人に影響を与えること、<u>社会に貢献</u>すること。</p> <p>⇒社会貢献とは？ …相手の立場を想像し、より良い社会にするため尽力すること、</p> <p>→<u>人のために行動を起こすこと。</u></p>
-----------	---

⇒人のために行動を起こすとは、具体的にはどんなことか？

- ・災害・緊急時に欲しい情報がすぐ手に入るシステムの実現
- ・SNS を公共でももっと活用する
- ・アプリを活用し、便利な生活を提供する

目的意識の確立していない受動的な ICT 使用はしない。能動的に使用し、ICT は脇役であり、自分たちが主役であるという心構えが大切。ICT を活用するときは自立精神が必要。

●B グループ

大人と高校生が共同で「知識」「技能」「モラル」を組み合わせた新しい ICT 教育を作る。

① 共通理解：ICT について正しく理解し、活用できている人がどれくらいいるのか？

⇒責任感を持って、社会のために正しく活用できる人材が必要。

② 今までの ICT 教育は、大人からの一方通行

小さいころからネット環境におかれている高校生の経験や視点も取り入れ、より身近に、意味のあるものにできないか。

⇒これからの ICT 教育の具体案として・・・

- ・ネットモラルを確かめるためのテスト共同作成
- ・小中学校への合同授業開催
- ・高校生の希望に基づく技能教育

◎高校生の実体験やトラブル事例を基にして、本当はどのような対応が望ましかったのか考えさせる問題を作る。また、言葉の不適切な使用によるネットトラブルを防ぐため、大人による ICT 基礎知識講習にプラスアルファして、高校生による、ネットスラングや新語の解説を行う。

◎高校生が ICT 教育に自ら参画することで、18 歳成人化に伴い大人に近づいていく高校生自身だけではなく、下の世代や大人の知識と ICT 活用能力の向上に貢献できるのではないか。行政・学校からの支援でこれらの活動を活発に行うことができれば、社会のために正しく活用できる人材の育成に役立てることができる。

(2) 各開催地での熟議における提言のまとめ

①ICT に関する法整備

ネットの不正利用、虚偽広告、誹謗中傷の厳罰化、高齢者や要介護者宅に ICT 健康管理システムの導入を義務付ける

② 気軽に投票できる環境づくり…ネット投票、コンビニ投票

③ 社会で必要な情報が集約されたページの開設

④ 情報教育の強化…行政・高校生が協力し、ICT の主体的利用のための広告を制作する

- ⑤ 高校生がネット広告として体験型の学習ページを開設する
- ⑥ SNS の免許化…一定の年齢に達し、試験に合格した人に免許が交付され、交付番号を入力することで SNS を利用できるようになる（実現可能性は低い）。義務教育段階で講習やテストを行い、法的拘束力のない免許を生徒に配布し、意識向上を狙う。

(3) おわりに

今回のカンファレンスを通して、大人になることへの自覚、社会の在り方を他人事ではなく自分のこととして捉えられた。また様々な地域の高校生と話し合うことで、新しい価値観や考えを知ることができ、ICT への興味関心・知識が増えた。このような活動を続け、全国での認知度をもっと上げていくべきだと考える。

(4) 参加しての感想

(生徒 A) 自分ではネットを使えるほうだと思っている。家族に使い方を教えたり、祖母のスマートフォンの設定をしてあげたりしていた。しかし、社会全体としての ICT の使い方を考える機会は今までなかった。同じ高校生でも色々な立場の人がおり、ICT の良い点、悪い点について様々な考え方をしていることがわかり、皆で話し合っって考えを導きだすこと、ICT について皆で意見を出し合っって考えることの重要性を感じる事ができた。今回の経験を大切に生活していきたいと思う。

(生徒 B) カンファレンスを通して、一つの物事について皆で話し合う大切さを感じた。より多くの高校生に同様の経験をして欲しい。

(5) 文部科学省「高校生 ICT Conference 2018 最終報告会」感想・質疑応答

(文部科学省 以下文科省) 先ほどフィルタリングの話が出たが、実際に使用している高校生の評判はどういったものか。

(生徒 A) 高校生プラスを使用しているが、フィルタリングがかかっているという意識はあまりない。高校生は SNS とネット検索ができれば問題はないのではないか。

(生徒 B) 友人のスマホにはフィルタリングがかかっている、それを抜け出す方法をずっと考えている。それはそれで頭を使うので良いのではないか。高校生はネットを使うことはできるが、使いこなせてはいない。知識がない人も使える状況になっている今、スマホを使うこと自体の難易度を上げるほうが早いのではないかと思う。

(文科省) これからの ICT として、いくつか案を挙げてくれているが、自分たちですぐに取り組むことができそうだと、こういうことを一番に取り組んだほうが良いのではないか、と思うポイントはあるか。また社会問題の中で、高校生同士、または他の立場の人も交えて話し合いたいテーマは何か。

(生徒 A) 私たち高校生にアンケートをとってもらい、どういうことを聞きたいか、どんなことを学びたいのかを吸収したうえで、講演会等を開いてもらえればと思う。社会問題では、少子化について考えたい。高齢化社会を支えることと自分たちの生活の両立について気になっている。

(生徒 B) 高校生自身が知りたいと思うことを、その道の専門家に聞きに行くのが良いと思う。例えばネット詐欺で捕まった人の話を聞くなど。詐欺は人を信用させるプロなので、(ネット問題には) その目線を考えて対応したら良いのではないか。社会問題では、若い世代の投票率について話し合いたい。18歳が選挙権を行使するかという話は別で、政治に関心を持っていない。授業だけでは足りないので、自分が政治家になったら何をするのか、今の政治家が実際に何をやっているのかを考える。ただ不平不満を言うのではなく、解決策を提示したうえで批評、批判するのが大切なのではないか。情報だけではなく政治についてのディベートもやっていいのではないかと思う。

(文科省) 学校の情報モラル教育の授業は講演ばかりという話があったが、講演会ではどんな話を聞いているのか。高校生に響かない理由を教えて欲しい。

(生徒 A) 高校に入ってから、生徒全員がホームルームの時間に集められて話を聞いた。SNS に誹謗中傷を書いたりはいけない、迷惑行為は匿名でも見つかる、SNS に安易に実名を書き込んではいけないなど。それは皆わかっている。いけないとわかっているでもやってしまう人がいるということは、響いていないということではないか。ムービーなどもあるが、実際の体験を聞くほうが高校生には伝わるのではないかと感じている。

(生徒 B) 中学校の時にネット詐欺の講演があり、学年全員が呼ばれて聴講した。ただ聴いているだけであるし、多くが聴きたいと思っっているのではない。話し手の腕の見せ所だと思うが、話す側も聴く側も意識を持たないといけない。聴くだけだと危機感が感じられない。以前、友人とワンクリック詐欺を探すということをやってみた。見つけたところ、無視すれば良いとわかった。そういった体験があるからこそ、気を付けるようになった。実体験があるほうが良い。講演会では少し距離がある気がする。

(文科省) 事実上、ネットでは親に内緒で売買ができる環境になっている。そうした人たちにどうしたら気づかせることができるか。やってはいけないことをしている人への情報モラル教育についての議論はあったか。

(生徒 A) 具体的な話は無かったが、自分の周りにも取引している人はいる。悪いと思っっているし、トラブルにも遭っっていない。高校生は危ないといわれても自分には対応できる知識があると思っっているので、納得させるのは難しい。知識や技能を身に付ける前に教えるほうが良い。小学生などスマホ持つ前の早い段階から伝えるのが大切ではないか。

(生徒 B) フリマアプリは、友人が小遣い稼ぎの感覚で使っている。最初は怖いのが慣れると大丈夫と言う人がほとんど。慣れが怖いと思う。本名でアカウントを作るのも、身近に危険が感じられていないからだと思う。危険がわかっていないので、ネットを使える年齢を引き上げるほうが良いのではないかと、成人になってからネット使えるようにしたほうが良いのではないかと、という意見は出た。

(文科省) 厳しく規制すればするほど、メジャーな SNS ではなくアングラな SNS に行くのではないかと、そこでトラブルに遭うのではという話は出なかったか。また、親と規制について話し合う点についてはどうか。

(生徒 A) サミットでは親との関わりはあまり話し合われなかった。高校生から大人に伝えられることもある。親が理解を示してくれたら、親の目の届く範囲で自由に使えるようになるのではないかと。

(生徒 B) 個人的に親と話すことはある。やはり未成年は(ネットに)依存し過ぎの人が多し。便利過ぎるからこそ依存しているため、あえて不便にし、一定のラインで留めておくのが良いのではないかと。最近の考え方として「今を大切にす」傾向がある。自分の周りには今さえ良ければと思っる人が多しおり、過去・未来を考る人が少しと感じる。あえて今を不便にすると、無いものに考えがいくため、豊かな生活につながるのではないかとという気がする。

(文科省) 高校生の中で流行っているアプリはなにか。危険そうなおアプリはどんなも

のがあるか。

(生徒 A) ほとんど LINE、Twitter、YouTube しか使わない。新しいアプリは危ないこともあると思うが、既存のものも慣れていてから危険ということもあるのではないかな。

(生徒 B) 今流行っているアプリは特になく、落ち着いているのでは。自分自身はゲームが好きで友人と一緒に遊ぶのがほとんどなので、DL 数やレビューが多いと安心とを感じる。

(文科省) 高校生でゲーム課金やネットで買い物をする人は周りにどれくらいいるか。

(生徒 A) ネットで買い物をする人は多い。課金は、男子でお小遣いが多い人がやっているという感じ。

(生徒 B) 自分の周りは無課金で遊ぶ人がほとんど。小学生のときは携帯型ゲーム機で遊んでいたが、今はスマホの無料ゲームで遊ぶようになった。5,000 円なら 1 本のゲームを買う感覚である。ちょっとした課金をする人は周りにちらほらいる。自分が管理できているなら良いが、課金は悪だという人もいる。課金する人を優遇するという人もいるが、筋が通らないのではないかとずっと思っている。課金する人は、多くても 5,000 円くらいだと思う。

(文科省) 実際にトラブルにあった話を友人とすることはあるか。

(生徒 A) お金に関するトラブルは聞いたことがない。マイナーなライブと一緒に行かないかと Twitter で集めたりする人はいる。

(生徒 B) 目に見える危険があるので、お金に関しては躊躇する。人間関係のトラブルは見えないところで起こるので、自分の周りではそちらのほうが多い。

(文科省) 提言に小中学校への授業とあるが、もし自分たちが小学 3、4 年生に授業する場合、どんなことを伝えるか。

(生徒 A) 3、4 年生なら素直に聞いてくれるのではないかなと思う。両親に内緒で勝手にアプリを入れたり、課金してはいけないよと伝える。人に会ったりすることは、まだしないと思う。

(生徒 B) 親に内緒でアプリを入れるのは別にいいと思う。被害に遭ったら怒られて経験になるのではないだろうか。自分は、外で遊ぶことの面白さを教えたい。

(文科省) ネットを良いほうに使っていることを広めるとしたらどのような点か。

(生徒 A) 勉強時間をアプリで記録したり、自分のモチベーションを上げる使い方を伝えたい。

(生徒 B) 翻訳アプリがあったら、英語のプリントは自分ではやらずに翻訳してもらおうという思いが常にあるので、時間を測るくらいが良い。判らない問題は、yahoo 知恵袋を見ると載っている。友人はまず自分で考えずにここを見て、無かったら自分で解くか、といった感じ。それならば、計画を立てるアプリくらいが良いのではないか。

(文科省) 素晴らしい発表ありがとう。高校生の皆さんの具体例、経験、意見を伺いとても勉強になった。今後色々ところで生かす経験が大切なのではないかとと思う。ICT で教育の在り方がどんどん変わっていく。これからの教育がどうなるのか考えていかななくてはならない。今日も話し合うことの大切さについて話が出たが、このカンファレンスのような試みは社会に必要だと思うので、広げていっていただければと思う。ぜひ各地域でこうした活動を進めることで、学校やグループから変えていくことにつないでくれればありがたい。やりとりも大変頼もしく感じた。これからも頑張りたい。

(6) 内閣府「高校生 ICT Conference 2018 最終報告会」感想・質疑応答

(内閣府検討会構成員) 今の発表の中で真摯に受け止めるべきは、大人からの一方通行であるということかと思う。高校生の声を聞いて何かするということがあるわけではないので、本日の発表は、その点をすどく突いたものであると思います。今後こうした視点を高校生側も持っているとうご理解いただきながら、議論を続けて欲しい。

(内閣府検討会構成員) 嬉しく頼もしく拝聴した。当日の熟議ではたくさんの意見が出たであろうし、初めて出会う者同士で各々の異なる意見を踏まえ、新しい考えを作っていくことは貴重な体験であったかと思う。終わってからもネットで意見を調整されるなど、まさに今後求められる新しい学びであろうと感じた。発表の中で、SNS の免許という提案や、小中学校で合同授業を開催するといった案があったが、このような授業が望ましい、という提言はありますか。

(生徒 A) 講演会等において、ムービーなどでトラブル事例が伝えられるが、生の声ではない。高校生もそのような場に参加し、自分の言葉で下の世代に伝えていくことができれば、年齢も近いので身近に感じてもらえるのではないか。その授業に続いて、高校生と大人と一緒に作ったテストを受けてもらい、(SNS の) 免許がもらえることで児童生徒の意識が高まれば良いと思う。

(生徒 B) 法で整備するのは大切だと思う。小・中・高校生は、事件が起きても自分が見えないところでは身近に感じることができず、危機感を感じない。小中学校

の共同授業や高校生主体の授業などでは、生徒が先生になり、先生が生徒になって授業をするのも面白いのではないかと思う。実際に生徒たちはこう考えているのか、と判って良いのではないか。家での遊びが多くなり、外で遊ぶのは危険だと言われているが、面白い遊びはあるし、大事さを伝えたい。

(内閣府検討会構成員) 実行委員長に質問だが、今後、海外の高校生の参加など、グローバル展開は検討されているか。費用もかかると思うが、TV 会議システム等を活用して、企業や団体の協力を仰ぐことができるのではないか。抱えている悩みは共有している部分があると思うので、お互いどのような問題意識をもって解決しようとしているかわかり、良いことではないかと思うが、いかがでしょうか。

(実行委員長) 海外との意見交換については実行委員会でも話が出ているので、検討したい。貴重なご意見ありがとうございます。

(7) 総務省「高校生 ICT Conference 2018 最終報告会」感想・質疑応答

(総務省) 11月の東京サミットでの発表も聞かせていただいたが、本日もプレゼンが上手くコミュニケーション力も高く、素晴らしいと思った。皆さんが自分の意見をしっかり伝える力はどこで身に付けたのか、またテストを共同作成するという発想や、自分たちで作ろうという発想など、こういったアイデアはどのように生まれてきたのか、聞かせて欲しい。

(生徒 A) ありがとうございます。小学校のときから児童会長をつとめており、中学でも全校集会等で意見をまとめ、週に一回ほど全校生徒の前で発表するプレゼンテーションの準備をしていた。そういった経験が今回に繋がっているのであれば、嬉しく思う。

アイデアについては、サミットで出たことだが、大人だけでは駄目だし、高校生だけでも出来ないことがある。だからこそ双方向の活動が大事なのではないかという考えから、今回の提言となった。そのため、今回の発表の中では共同という言葉が多くなっている。

(生徒 B) 学校のプロジェクトに参加してクラスメイトとテーマについて話し合った経験が、今回に繋がっている。生徒会の経験はなく、人前で話すこともあまりないが、自分の意見は小さいころから持っていた。それをきちんと言えるよう、自分自身が変わろうとしたということもあるように思う。

ICT教育の具体例だが、広告などはとても大切だと思っている。広告作りを実際に体験したり、どういった広告であれば良く伝えられるのかなど、高校生のうちに経験しておくのと良いと思った。またテストの共同作成についても、ネット環境があるところから育っている我々のほうが、生活面での活用のコツなどを知っている部分もある。そういったことを大人と共有できたらと思い、提案した。

(総務省) 高校生 ICT カンファレンスに参加したきっかけを聞かせてほしい。

(生徒 A) 生徒会に案内が届き、後輩の希望により一緒に参加した。

(生徒B) 引率の先生の勧めで参加した。

(総務省) 大人の情報モラルについて、皆さんはどう感じるか。また動画投稿サイトで顔を出している人もだいぶいるようだが、どう思うか。

(生徒B) ネットモラルは、皆そんなに持っていないと感じている。以前、友達とどれくらいモラルを持っていない人が多いか示すため、個人情報とどれくらい出回っているか調べた。知らない動画を選び、そこに出ている個人を特定できるか試したところ、特定することができた。個人情報が洩れているのに普通に動画を投稿していることがわかった。

(生徒A) 使い始めて日が浅いと、大人もネットモラルが理解できていなくて、日常生活のモラルとネットモラルが結び付かないのではないと思う。ある動画共有アプリにアップされたダンスの動画が、他の動画サイトに転載されたりしているのを見ると、一度アップすると自分の思わないところで拡散される危険性を感じる。

(総務省) ネットを利用するとき匿名で情報発信ができることのメリットとデメリットについて聞かせてほしい。

(生徒A) 面と向かって話せないことや、自分の考えを広げていきたいときは、匿名性が自分を守る手立てにもなるし、有効な時がある。しかし匿名で質問をしたり質問を受け取ることができるサービスでは、アカウントを特定されずに投稿ができ、さらに匿名性が高まることによって、かなりの暴言を書き込んでいる人もいるので、守られていると感じ過ぎると悪いほうに進むのではないか。

(生徒B) メリットは、いろんな人がいろんな意見を言えること。職業をあまり言いたくない人なども自由に意見を言えるのはいいことだと思う。デメリットは、面と向かって話していないので何でも言えてしまうこと。気を付ける点は、面と向かって言えるかという心持を失わないことだと思う。

(総務省) ICTの広告制作に関わるという提案について、具体案があれば聞かせてほしい。

(生徒A) 広告をクリックすることでネット犯罪の被害を体験できるなどは面白いのではないと思う。

(生徒B) 画面上だけではなく、街中を広告に使えばいいと思う。例えばアメリカの防弾ガラスの会社が、「ガラスを壊すことができたならお金を差し上げます」という手紙と共に、強化ガラスの中に一億円を入れてバス停に置いた。結局、期間内に誰も壊すことができず、ガラスの頑丈性が示された。また、時計の会社が電車のつり革の一部を時計のデザインにする広告宣伝をしたところ、利用者はその時計を着用した気分になり、商品が売れたそうだ。より身近に感じる広告を打てば、もっと興味を持ってもらえるのではないと思う。

(実行委員長) 参加者にアンケートをとり、各地域の意見もまとめている。またご協力をいただきながら活動を続けていきたいと思う。本日は誠にありがとうございます

ました。

(総務省)素晴らしい発表をありがとうございました。感銘を受けました。今や96%の高校生がスマホを持っているとのことであり、ほとんどの高校生がインターネットに接続可能な端末を持っている時代を迎えました。また、2022年には成人年齢が18歳に引き下げられますところ、今年はタイムリーなテーマ設定をしていただきました。実行委員会の皆様には8年の取組みに敬意を表します。本日の発表でたくさんのヒントをいただきました。本日の提言を踏まえ、引き続き青少年の皆さんの安心安全なインターネット利用環境整備に取り組んでまいりたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

5. 主担当

大阪私学情報教育化研究会 (高校生 ICT Conference 実行委員長)	米田	概要説明
安心ネットづくり促進協議会	松岡、高木	事務局、庶務
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	工藤	記録
高校生ICT Conference実行委員会	林	撮影